

現場の問題に一人で悩まず 東京土建に相談し改善を

安全、衛生上で問題のある現場は少なくありません。放置すれば重大事故にもつながります。東京土建では、昨夏の丸の内3-2現場のように、仲間から寄せられた情報をもとに現場改善を実現しています。練馬支部の組合員の訴えから労働基準監督署を動かして、改善させたケースを紹介します。

ピット内は腰まで水

現場監督は改善要求を無視

練馬支部のAさんは専門職工事をする一人親方です。今年の5月から首都圏にあるB企業の施設新築現場に従事しました。工事の内容は、この施設の地下にあるピットの中で、作業をするというものでした。



ピット内は高さが1.5m程。腰を屈めての作業になる

現場環境は劣悪なものでした。高さが1・5m程しかないピットの中は腰の辺りまで汚水がたまり、釣りで使うウエーダーを着用しないと濡れて作業ができません。さらに仮設電源が漏電しているようにピット内は暗く、足元が見えづらく作業は効率が悪くありません。また、工具が汚水に浸かり錆びて壊れてしまうこともありました。

監督署へ指導求める

元請即座に対応、詰所まで

Aさんは諦めませんでした。東京土建練馬支部に所属していることを思い出し、7月半ばに練馬支部の事務所に電話を掛けました。対応したのが、賃金対策担当の亀川書記。亀川さんは、元請が大手のC建設であることから、東京土建本部にも連絡、相談し

続け、重大な事故にもつながりかねないし、工期に迫られる中、作業の進捗(しんちよく)も心配になっていました。現場監督に作業環境の改善を求めましたが、対応してくれませんでした。また、ピット内ではAさんと一緒に働く約10人の労働者がいたのですが、ベテランの労働者にこの状態について意見を求めると、「今まで経験した中でも酷い現場だと思っけれど、やるしかないじゃない」と、元請の監督などに改善を求めることは消極的でした。

解体現場で不審死 増える外国人の死傷者

【賃金対策部・中村修一記】9月10日に世田谷区南鳥山3丁目、木造アパート解体現場でベトナム人作業員3人が死傷しているのが発見され



死傷したベトナム人作業員が発見された現場

ました。東京土建本部では翌11日に現地調査に向かい、事業所名等の確認を行いました。事故現場は2棟の解体作業が行なわれており、内装などが残ったままです。一酸化炭素中毒との見方ですが、窓を閉め切った中で、なぜエンジンをかけたのかなどの疑問が残ります。2018年の外国人労働者の死傷者数は2847人、7年連続増加で10年前(1443人)から倍増しています。転落や大型機械に巻き込まれたりする事故が目立つとされ、建設業労働災害防止協会(建設防)でも外国語表記の安全標識等の推進を図っていますが、小零細事業者での活用は遅れています。また技能実習生が解体作業することは禁止されており、死傷者の在留資格や事業所との雇用関係についても、法令違反の有無を含め調査が行なわれています。

第70回大手企業交渉に向け

情報お寄せ下さい



2019年春の積水ハウスとの交渉

10月17、18日を中心にして第70回大手企業交渉が行なわれます。清水建設、鹿島建設などゼネコン、大和ハウス工業、積水ハウスなど住宅企業、また関電工などサブコンの大手39の企業が対象です。企業交渉では、建設業界を代表する大手企業に対して、現場で働く者の賃金・単価の大幅引き上げ、現場の労働環境の改善などを求めて話し合います。



東京土建では70回企業交渉にあたり、大手企業の現場に



濁った水が溜まっている

2度にもわたって、労働基準監督署による臨検が行なわれ、Aさんの指摘した地下ピット内の汚水を除去するように監督官から

ついで話し合いました。話し合いの末、C建設に直接改善を要求するのではなく、現場を所轄するD労働基準監督署からC建設に対して監督・指導させる方法をとることにしました。D労働基準監督署の監督官には、Aさんの匿名性を担保することなどを考慮しながら、速やかに臨検を行なうことを強く申し入れまし

組合の存在意義示す

些細な事でも必ず相談



解決後、Aさん(手前)と話す右から佐藤さん、亀川さん、長谷部さん

「組合に声を寄せてくれて、どのような方法を使うかは別として、改善をさせなければ返ってしまいました。Aさんは、現在の専門職種を始めて8年ほど経験があり

C建設に指導が行なわれ、作業環境は大きく改善されました。「労基署の臨検が入って指導されてから、元請C社に対応は早かったですね。おまけに、詰所が暑かったのですが、扇風機が増設されました」とAさんは笑顔で話してくれました。Aさんは最後に「私の職種でも、現場で外国人を見るのが多くなりました。建設業は人手不足というから、賃金上がるのかと期待しましたが、彼らが安く働くことで結局良くならないのでは心配しています。今回のことで思うのは、現場で問題があったら、何が問題なのかをよく調べて、組合などとよく根回し(相談)して、ポイントを絞って改善をはかることが大切だということです」と話してくれました。